



だて正夢

# 登米地域の稲作通信 第9号 (総括号)

令和7年1月8日発行  
宮城県米づくり推進登米地方本部  
宮城県登米農業改良普及センター  
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

## 1 気象経過

観測地点：米山アメダス

(4月)

平年よりも気温の高い日が続き、平均気温は平年より3℃以上高く推移しました。9日に60mmを超える雨がありましたが、4月の降水量は平年比103%となりました。

(5月)

下旬は平年よりも気温の低い日が続きました。5月の降水量は平年比112%、日照時間は平年比91%となりました。

(6月)

5月下旬に引き続き、上旬は気温の低い日もありましたが、その後は平年よりも気温の高い日が続き、最高気温が30℃を超える日もありました。東北南部の梅雨入りは平年より11日遅い6月23日頃でした。

(7月)

気温は平年より高く推移し、平均気温は平年より2.5℃高くなりました。降水量は8日と25日にまとまった雨があり、平年比163%と雨の多い月となりました。

(8月)

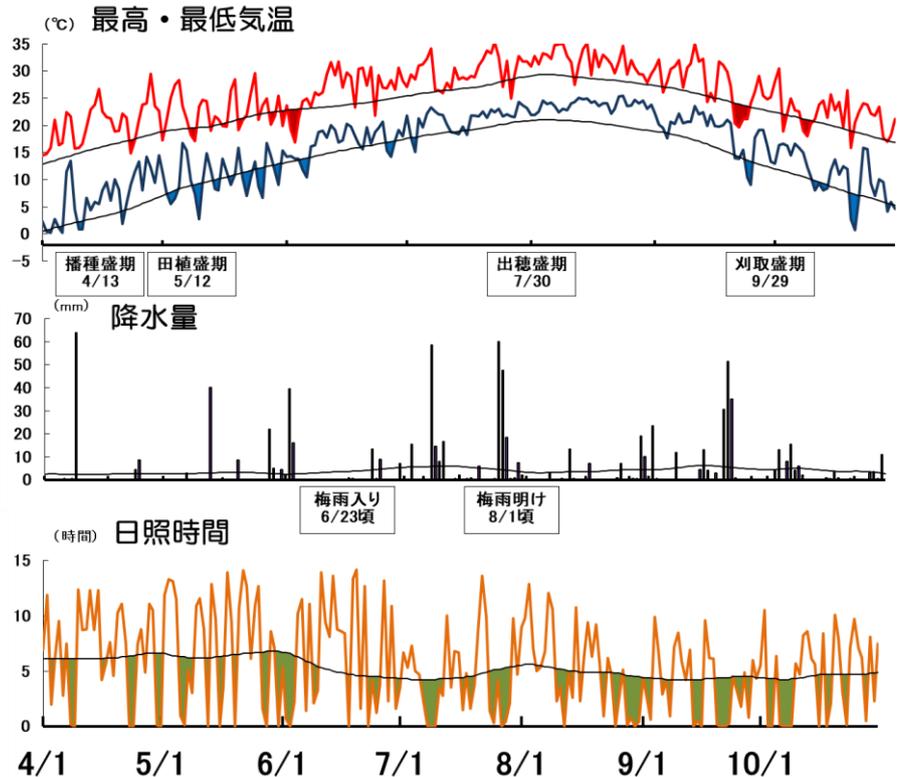
7月同様、気温は平年より高く推移し、平均気温は平年より3.0℃高くなり、下旬になっても気温の下がらない日が続きました。下旬に日照時間が少ない日が続き、8月の日照時間は平年比104%となりました。東北南部の梅雨明けは平年より8日遅い8月1日頃でした。

(9月)

上・中旬でも最高気温が30℃を超える日が多くありました。下旬には平年よりも気温の低い日がありましたが、26日以降は平均気温よりも高い日が続きました。14~16日、21~23日の3連休に雨が続き、刈取適期にあいにくの雨となりました。

(10月)

10月の平均気温は平年より2℃以上高く推移しました。降水量は平年比62%と雨の少ない月となりました。



## 2 気象概況と管内の生育概況

### (1) 育苗期

- 管内の播種盛期（50%終了）は4月13日（平年より1日遅い）でした。
- 4月中旬、下旬の高温の影響により高温障害、徒長苗が見られました。
- 一部でフザリウム属菌、ピシウム属菌などによる苗立枯病が見られました。

### (2) 田植期～活着期

- 管内の田植盛期（50%終了）は5月12日（平年より1日早い）でした。
- 5月下旬に気温の低い日が数日続きましたが、その後は天候に恵まれたため、田植え後の活着は概ね順調に進みました。

### (3) 分けつ期～出穂期

- 管内の出穂期（50%終了）は7月30日（平年より2日早い）でした。
- 7月は気温が平年よりも高く推移し、草丈、莖数は平年よりも高く推移しました。

### 【管内の出穂状況】

地帯区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和6年	平年	令和6年	平年	令和6年	平年
北部平坦	7月26日 (-3)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月5日 (-2)	8月7日
三陸沿岸	7月27日 (-3)	7月30日	7月31日 (-2)	8月2日	8月7日 (-3)	8月10日
管内	7月26日 (-3)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月5日 (-2)	8月7日

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ出穂期(50%以上が出穂)に達したほ場の面積が5%、50%、95%に達した日。

※平年値は、過去5か年(令和元年～令和5年)の平均値。

### (4) 登熟期～収穫期

- 8月上旬～9月中旬にかけて30℃を超える日が続き、最高気温、最低気温ともに平年を大きく上回り推移しました。
- 管内の刈取盛期（50%終了）は9月29日（平年並）、刈取終期（95%終了）は10月17日（平年より5日遅い）となりました。
- 倒伏したほ場が多く見られ、さらに降雨と高温により、ひとめぼれ、ササニシキ、金のいぶき等では、穂発芽が散見されました。

### 【管内の刈取状況】

地帯区分	刈取始期		刈取盛期		刈取終期	
	令和6年	平年	令和6年	平年	令和6年	平年
北部平坦	9月18日 (-3)	9月21日	9月29日 (±0)	9月29日	10月17日 (+5)	10月12日
三陸沿岸	9月18日 (-4)	9月22日	9月29日 (-2)	10月1日	10月14日 (+3)	10月11日
管内	9月18日 (-3)	9月21日	9月29日 (±0)	9月29日	10月17日 (+5)	10月12日

※刈取始期、刈取盛期、刈取終期は、刈取実施面積が5%、50%、95%に達した日。

※平年値は、過去5か年(令和元年～令和5年)の平均値。

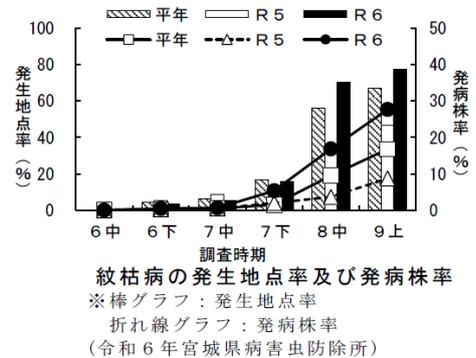
### 3 管内の病害虫の発生状況(県病害虫防除所巡回調査結果による)

#### (1) ばか苗病

- ・5月中旬の育苗時の巡回調査では、発病箱率は5.9%でした。(県平均2.0%)
- ・6月下旬の巡回調査では、発病株率は0.1%でした。(発病株率0.2%)

#### (2) 紋枯病

- ・9月上旬の巡回調査では、発病株率は46.5%、発病度は16.9でした(県平均発病株率27.6%、発病度8.9)。前年同時期の調査結果は、発病株率は26.0%、発病度は5.4でした(県平均発病株率8.7%、発病度1.9)。  
 平年(発病株率16.8%、発病度5.2%)、前年より発生は多く、上位葉鞘まで進展した株も見られました。



#### (3) いもち病

##### 1) 葉いもち

- ・6月中旬の残苗巡回調査では、残苗放置筆率は6.7%、残苗発病筆率は0%でした。(県平均残苗放置筆率6.5%、残苗発病筆率0%)
- ・7月下旬の巡回調査では、発病株率は0%、発病度は0%でした。(県平均発病株率0.4%、発病度0.1%、上位1~2葉病斑数0.1、上位1~3葉病斑数0.1)

##### 2) 穂いもち

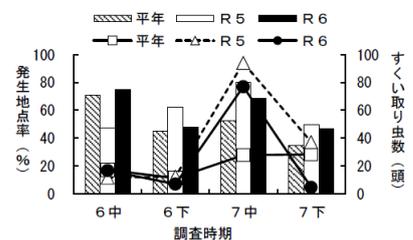
- ・9月上旬の巡回調査では、穂いもちの発病穂率は0%、被害率は0%でした。(県平均発病穂率0%、被害率0%)

#### (4) イネドロオイムシ

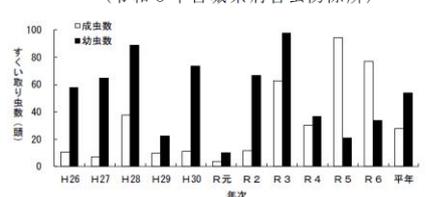
- ・6月中旬の巡回調査では、イネドロオイムシの被害度は0.6(県平均0.3)、6月下旬の巡回調査では2.0(県平均0.4)でした。前年の調査結果では、6月中旬の被害度は5.9(県平均1.1)、7月初旬の被害度は5.6(県平均1.2)となっており、前年よりも少なくなりました。

#### (5) 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

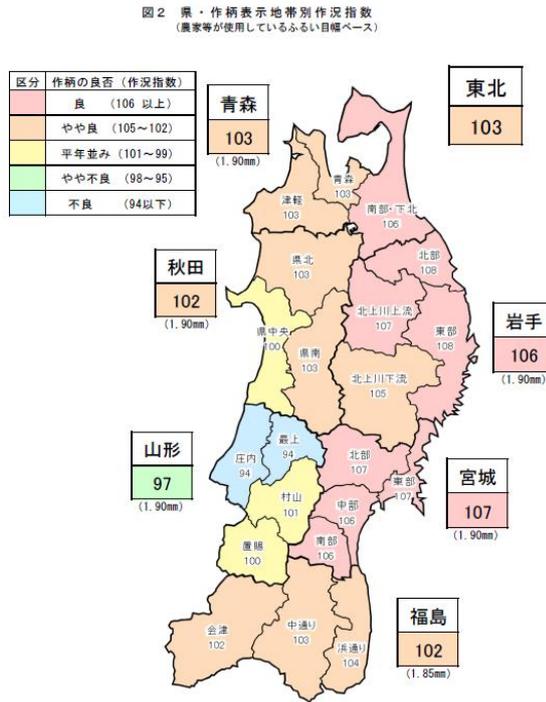
- ・7月中旬の巡回調査では、水田周辺草地におけるカスミカメムシ類(アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、フタトゲムギカスミカメ等)の1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点では140頭でした(県平均120.8頭)。前年同時期の調査結果では、1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点で627頭(県平均132.5頭)と前年よりもかなり少なくなりました。



- ・7月下旬の巡回調査では、本田内にカスミカメムシ類を誘引する雑草(ヒエ、ホタルイ等)が残草していたほ場におけるすくい取虫数(成虫)は5.5頭、残草がなかったほ場は0.1頭と、残草していたほ場ではかなり多くなりました。



## 4 令和6年産水稻の作柄概況（東北地方）



東北農政局 令和6年12月10日公表

### 【結果】

東北地方の水稻の10a当たり収量は583kgとなった。

全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)が、青森県及び山形県では、田植え後の低温や7月の日照不足により平年に比べてやや少なくなったものの、その他の県では、田植え期以降おおむね天候に恵まれて平年並み以上となったことに加え、登熟(もみの肥大、充実)が、福島県では、倒伏の影響によりやや不良となったものの、その他の県では、出穂期以降おおむね天候に恵まれ平年並み以上となった。

## 5 1等米比率と品質を左右した要因

表 1等米比率と落等要因(倉庫検査+カントリーエレベーター、うるち米)

(11月末現在)

JAみやぎ登米											JA南三陸		R6	R5
支店名		追	とよま	豊里	石越	南方	米山	なかだ	東和	計	津山	登米市	登米市	
1等米比率(%)		91.2	92.1	95.9	92.0	94.6	93.4	92.8	75.8	92.4	82.3	92.4	87.0	
格下理由	形質	充実度不足	1.3	1.4	0.4	0.6	1.8	1.6	1.9	3.5	1.5	10.2	1.5	1.9
		心白・腹白	3.9	2.0	0.9	4.5	2.3	2.0	1.9	7.6	2.8	2.4	2.8	1.6
	着色粒	カメムシ・その他	2.9	4.3	2.6	2.4	0.8	2.8	3.2	13.1	2.9	5.1	2.9	9.1
	被害粒	胴割粒・発芽粒	0.2	0.0	0.1	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2
	異種穀粒・もみ混入	0.5	0.2	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	

※1等米比率は倉庫検査+カントリーエレベーター。

※格下理由は倉庫検査の格下数量割合から算出。

※充実度不足: 形質的に扁平、縦溝が深い、果皮が厚い、光沢がない、肌ずれ、薄い茶米、軽い奇形、未熟粒等が1等米より多く認められるが、それ単独では格下げ理由に当てはまらず、総合的に判断して1等米に該当しないもの

※異種穀粒: もみ混入、もち玄米混入(うるち)、精米混入等

### (1) 1等米比率

- 管内の1等米比率は92.4%(11月末現在)でした。
- 落等要因は、第1位は着色粒で、続いて心白・腹白が多くなりました。

### (2) 品質を左右した要因

#### ○着色粒の発生

- 高温の影響から各世代の斑点米カメムシ類の発生が早まり、防除タイミングがずれたことが考えられます。また、高温の影響により割れ粳の発生が多く、粳殻の隙間から雑菌等が入り着色したのも見られました。

## 6 調査ほの収量調査結果

### (1) 移植栽培 収量・品質調査結果

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点		出穂期	成熟期	収量調査 (1.9mm以上)						倒伏 程度 (%)
							m <sup>2</sup> 当たり 穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 当り数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	前年比・差 +5日 +1日	8月6日	9月14日	469 106% 106%	83.5 117% 126%	392 124% 134%	69.1 80% 78%	22.4 100% 100%	606 99% 105%	19
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	前年比・差 +1日 -4日	8月1日	9月7日	463 115% 107%	77.1 108% 108%	357 124% 115%	77.9 92% 96%	23.0 100% 101%	640 114% 113%	0
3	ひとめぼれ (晩期栽培)	-	米山町	前年比・差 — —	8月10日	9月23日	395 — —	92.2 — —	364 — —	67.1 — —	22.2 — —	545 — —	0
4	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	前年比・差 +3日 +1日	8月3日	—	361 106% 90%	81.8 107% 100%	295 113% 92%	87.0 90% 104%	22.2 103% 102%	569 106% 98%	0
5	つや姫	Cタイプ	迫町	前年比・差 — —	8月4日	9月18日	420 — —	74.6 — —	313 — —	87.4 — —	22.5 — —	616 — —	0
6	だて正夢	-	迫町	前年比・差 -2日 -2日	8月4日	9月16日	377 97% 93%	84.6 90% 95%	319 87% 89%	92.1 128% 121%	21.2 103% 102%	623 115% 111%	45
7	金のいぶき	-	登米町	前年比・差 +6日 +3日	8月8日	9月25日	498 106% 103%	86.4 108% 103%	431 115% 106%	57.9 99% 108%	21.2 99% 96%	529 112% 111%	0
8	つきあかり	-	豊里町	前年比・差 — —	7月23日	9月4日	303 — —	97.8 — —	296 — —	83.3 — —	23.8 — —	588 — —	0

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

#### ひとめぼれ (2ほ場平均) 平年比

○m<sup>2</sup>当たり穂数 → 多い (109%)  
○m<sup>2</sup>当たり粒数 → かなり多い (124%)  
○玄米千粒重 → やや多い (101%)

○一穂粒数 → 多い (113%)  
○登熟歩合 → 低い (88%)  
○精玄米重 → 多い (110%)

#### ササニシキ 平年比

○m<sup>2</sup>当たり穂数 → 少ない (90%)  
○m<sup>2</sup>当たり粒数 → 少ない (92%)  
○玄米千粒重 → やや多い (102%)

○一穂粒数 → 並み (100%)  
○登熟歩合 → やや高い (104%)  
○精玄米重 → やや少ない (98%)

#### だて正夢 平年比

○m<sup>2</sup>当たり穂数 → 少ない (93%)  
○m<sup>2</sup>当たり粒数 → 少ない (89%)  
○玄米千粒重 → やや多い (102%)

○一穂粒数 → 少ない (95%)  
○登熟歩合 → 高い (121%)  
○精玄米重 → 多い (111%)

#### 金のいぶき 平年比

○m<sup>2</sup>当たり穂数 → やや高い (103%)  
○m<sup>2</sup>当たり粒数 → 高い (106%)  
○玄米千粒重 → やや少ない (96%)

○一穂粒数 → やや高い (103%)  
○登熟歩合 → 高い (108%)  
○精玄米重 → 多い (111%)

【水稲品質調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点		玄米(1.9mm以上)							
					整粒比(%)	胴割粒比(%)	白未熟粒比(%)	青未熟粒比(%)	その他未熟粒比(%)	着色粒比(%)	死米粒比(%)	被害粒比(%)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町		<b>67.3</b>	<b>0.2</b>	<b>8.2</b>	<b>1.0</b>	<b>22.5</b>	<b>0.2</b>	<b>0.5</b>	<b>0.2</b>
				前年値	44.0	3.1	15.5	0.4	34.3	0.4	1.4	0.8
				前々年値	64.4	1.0	3.0	2.9	27.6	0.3	0.1	0.8
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町		<b>70.1</b>	<b>0.2</b>	<b>5.5</b>	<b>1.5</b>	<b>22.4</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>	<b>0.1</b>
				前年値	45.9	3.6	17.5	0.1	31.0	0.1	0.9	0.9
				前々年値	59.5	0.9	4.5	11.1	22.6	0.4	0.2	0.6
3	ひとめぼれ (晩期栽培)	-	米山町		<b>36.2</b>	<b>0.1</b>	<b>21.4</b>	<b>1.4</b>	<b>13.4</b>	<b>2.2</b>	<b>25.0</b>	<b>0.2</b>
				前年値	—	—	—	—	—	—	—	—
				前々年値	—	—	—	—	—	—	—	—
4	ササニシキ (復活ササニ)	Cタイプ	豊里町		<b>59.6</b>	<b>3.6</b>	<b>7.2</b>	<b>1.3</b>	<b>27.8</b>	<b>0.0</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>
				前年値	49.0	3.7	31.3	0.0	10.6	0.0	3.4	1.9
				前々年値	88.6	0.4	2.9	1.7	4.8	0.0	0.3	1.4
5	つや姫	Cタイプ	迫町		<b>70.2</b>	<b>1.1</b>	<b>3.6</b>	<b>0.1</b>	<b>24.8</b>	<b>0.1</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>
				前年値	—	—	—	—	—	—	—	—
				前々年値	—	—	—	—	—	—	—	—
6	だて正夢	-	迫町		<b>14.9</b>	<b>0.0</b>	<b>21.1</b>	<b>0.1</b>	<b>62.8</b>	<b>0.1</b>	<b>0.2</b>	<b>0.8</b>
				前年値	0.4	0.0	69.0	0.0	10.6	0.2	14.1	5.7
				前々年値	56.5	0.2	2.9	3.3	33.9	0.9	0.1	2.2
7	金のいぶき	-	登米町		<b>19.5</b>	<b>0.5</b>	<b>41.5</b>	<b>0.2</b>	<b>7.5</b>	<b>3.4</b>	<b>27.1</b>	<b>0.3</b>
				前年値	2.2	0.0	1.0	0.0	0.0	4.5	91.8	0.5
				前々年値	—	—	—	—	—	—	—	—
8	つきあかり	-	豊里町		<b>73.0</b>	<b>0.1</b>	<b>16.7</b>	<b>0.1</b>	<b>8.5</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>1.4</b>
				前年値	—	—	—	—	—	—	—	—
				前々年値	—	—	—	—	—	—	—	—

※つきあかり以外はSATAKE社RQ1-100Bで測定。つきあかりはSATAKE社RG120Aで測定。  
 ※栽培タイプ Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）  
 ※千粒調査  
 ※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計  
 ※だて正夢、金のいぶきは低アミロースのため、白未熟粒、その他未熟粒とカウントされた玄米が多かったと推測される。

◇ひとめぼれ

- ・5月下旬～6月上旬は低温が続き、莖数は少なくなったが、7月上旬以降は平年を上回り推移しました。草丈は7月中旬以降、平年より高く推移しました。
- ・㎡当たり穂数、1穂籾数は平年より多くなり、登熟歩合は低くなりましたが、精玄米重は平年より多くなりました。
- ・白未熟粒比、その他未熟粒比は前年より少なくなり、整粒比は高くなりました。

◇ひとめぼれ(晩期栽培)

- ・苗質などの影響から初期生育が確保できず、莖数は少なく推移し、㎡当たり穂数は少なくなりました。
- ・㎡当たり穂数は少なくなりましたが、1穂籾数が多くなり、㎡当たり籾数は通常の移植時期のひとめぼれと同等程度となりました。しかし、くず米が多く精玄米重は通常の移植時期のひとめぼれより少なくなりました。
- ・生育にかなりばらつきがあり、白未熟粒比、死米粒比がかなり多くなりました。

◇ササニシキ

- ・㎡当たり穂数が平年より少なくなったため、㎡当たり籾数は少なくなりました。
- ・千粒重は平年よりやや重くなりましたが、精玄米重は平年をやや下回りました。
- ・その他未熟粒比は高くなりましたが、白未熟粒比は前年に比べかなり少なくなりました。

◇つや姫

- ・㎡当たり穂数、1穂籾数は収量構成要素の目標値と同等程度となり、登熟歩合は目標値を上回りました。
- ・千粒重は目標値をやや上回り、精玄米重は目標値をかなり上回りました。
- ・白未熟粒比はかなり少なく、整粒比は高くなりました。

◇だて正夢

- ・期間を通して草丈は平年並、莖数は平年を下回りました。葉色は6月上旬～7月上旬までは平年より低く推移しましたが、7月中旬以降は平年よりも高く推移しました。
- ・㎡当たり穂数、一穂粒数は平年より少なくなり、登熟歩合は平年より高くなりました。
- ・千粒重は平年をやや上回り、精玄米重は平年より多くなりました。

◇金のいぶき

- ・㎡当たり穂数、1穂粒数が平年より多く、㎡当たり粒数は平年を上回りました。
- ・千粒重は平年を下回りましたが、精玄米重は平年を上回りました。

◇つきあかり

- ・㎡当たり穂数が収量構成要素の目標値より少なくなったため、㎡当たり粒数が目標値を下回りました。
- ・千粒重、登熟歩合は目標値の同等程度となりましたが、精玄米重は目標値を下回りました。
- ・出穂が早かったこともあり、白未熟粒比はやや高くなりました。

<b>&lt;参考&gt;</b> ひとめぼれ収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	410～460本
1穂粒数	60～70粒
㎡当たり粒数	28～30千粒
登熟歩合	85～90%
玄米千粒重	22.3g
10a当たり収量	550kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<b>&lt;参考&gt;</b> ササニシキ収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	480～510本
1穂粒数	54～64粒
㎡当たり粒数	28～30千粒
登熟歩合	80～85%
玄米千粒重	21.4g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<b>&lt;参考&gt;</b> つや姫収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	400～440本
1穂粒数	73～75粒
㎡当たり粒数	30～33千粒
登熟歩合	75～80%
玄米千粒重	22.0g
10a当たり収量	510～540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<b>&lt;参考&gt;</b> つきあかり収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	310～350本
1穂粒数	90～100粒
㎡当たり粒数	30～34千粒
登熟歩合	80～90%
玄米千粒重	23.5～24.5g
10a当たり収量	630～660kg

収量は1.9mm以上の玄米

※農研機構「つきあかり」栽培マニュアル(平成31年3月)から

<b>&lt;参考&gt;</b> だて正夢収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	350～400本
1穂粒数	85～95粒
㎡当たり粒数	30～34千粒
登熟歩合	75～85%
玄米千粒重	21～21.5g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

<b>&lt;参考&gt;</b> 金のいぶき収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	440～490本
1穂粒数	64～72粒
㎡当たり粒数	30～33千粒
登熟歩合	70～75%
玄米千粒重	22.5～23.2g
10a当たり収量	510～540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

## (2) 乾田直播栽培 収量・品質調査結果

### 【水稲生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	出穂期	成熟期	収量調査 (1.9mm以上)						倒伏程度 (%)
							m <sup>2</sup> 当たり穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 当り粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	
1	ササニシキ	フアラ耕 ケレド <sup>®</sup> ル体系	米山町 (中津山)	4月26日	前年比・差 8月3日 -3日 -5日	9月14日 -7日 -9日	401.2 116% 101%	98.9 111% 97%	397 129% 97%	78.9 94% 101%	22.5 105% 103%	704.0 127% 104%	0

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

### ササニシキ 平年比

- m<sup>2</sup>当たり穂数 → やや多い (101%)
- 一穂粒数 → やや少ない (97%)
- m<sup>2</sup>当たり粒数 → やや少ない (97%)
- 登熟歩合 → やや高い (101%)
- 玄米千粒重 → やや少ない (103%)
- 精玄米重 → やや多い (104%)

### 【水稲品質調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	前年値 前々年値	玄米 (1.9mm以上)							
					整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	白未熟粒比 (%)	青未熟粒比 (%)	その他未熟粒比 (%)	着色粒比 (%)	死米粒比 (%)	被害粒比 (%)
1	ササニシキ	フアラ耕 ケレド <sup>®</sup> ル体系	米山町	前年値 前々年値	75.6 53.8 86.1	0.7 1.3 0.0	11.6 27.1 3.4	0.7 0.2 3.7	9.5 15.3 5.2	0.1 0.0 0.0	0.3 0.8 0.3	1.8 1.6 1.4

※SATAKE社RG120Aで測定

※千粒調査

※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計

- ・生育期間を通して茎数は平年、前年よりも多く推移しました。
- ・m<sup>2</sup>当たり穂数が多くなり、収量は平年よりも多くなりました。
- ・白未熟粒比は前年より少なくなり、整粒比は高くなりました。

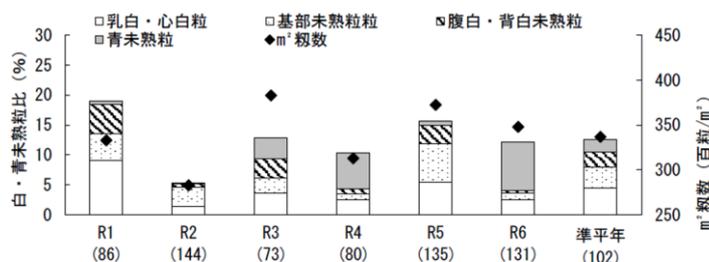
## 7 収量・品質に影響を与えた要因

### (1) 出穂前の光合成産物の蓄積不足

本年の出穂前後の気象は、高温寡照傾向で、特に8月中・下旬に日照時間がかなり短い日があり、茎葉における光合成産物の蓄積が少なくなり、初期登熟の遅れと登熟歩合低下につながったと考えられます。

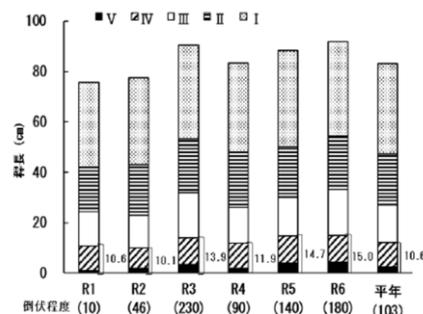
### (2) 倒伏による青未熟粒等の発生

古川農業試験場の作況試験ほ5/10移植「ひとめぼれ」の稈長は91.9cm (平年比111%)、第4、5節間長は15.0cm (平年比123%)、倒伏程度180 (平年比174%)と倒伏程度はかなり大きくなりました。下位節間伸長時期(7/7~7/12頃)の日照時間の不足、過繁茂などの影響によって下位節間が伸長し倒伏につながったと考えられます。また、倒伏したことによる登熟不良から青未熟粒が発生したと考えられます。



年次別の白・青未熟粒比と穂数 (作況試験ほ5/10「ひとめぼれ」)

注) 年度下の ( ) は出穂後20日間の日照時間を示す。



年次別の稈長

(作況試験ほ: 5/10 移植「ひとめぼれ」)

注1) 平年値: 過去5か年 (令和元~令和5年) 平均値

2) 年次下の ( ) 数字は倒伏程度(0~400)

3) 凡例: 第1~5節間長をI~Vで表記

## 8 令和7年産に向けての対策

### (1) 土づくりと適正施肥

堆肥や土づくり肥料（ようりんやケイカル等）を施用し、地力を高め、稲体や根の活力を高めましょう。生育状況に合った施肥を行い、穂揃期まで葉色を維持しましょう。

### (2) 適切な移植時期による品質向上及びリスク分散

移植を適切な時期（田植え目安：5月15～25日）に行うことで出穂期を早くならないようにし、高温登熟および障害不稔の回避を図りましょう。田植えを遅らせる場合は、播種時期を遅くする必要があります。また、直播栽培も出穂期を遅らせるのに有効です。

### (3) 適正な肥培管理・水管理の徹底

安定した品質を確保できるよう適正籾数（ひとめぼれで2.8～3万粒/m<sup>2</sup>）を目標に、ほ場に合った施肥や栽植密度、植付本数を設定しましょう。

近年中干しの開始時期が遅くなっている傾向があります。有効茎数を確保したら、速やかに中干しを行い、根の活力を高めましょう。落水時期は出穂後30日頃を目安とし、早期落水は避けましょう。

高温時の出穂後の水管理として、**飽水管理（田面が浸るくらいに水を入れる管理）**が効果的です。地温の上昇を抑制し、白未熟粒や胴割粒の発生を抑制しましょう。

### (4) 病害虫の防除対策は予防が一番の対策です!!

#### 1) ばか苗病

6年産は催芽・出芽時の気温が高く罹病苗が多く見られました。温湯消毒後の種籾の再汚染を防止するため、種籾の保管場所や状況、催芽・出芽時の温度管理を再確認しましょう。生物農薬による種子消毒も効果的です。

#### 2) 紋枯病

6年産は高温多湿の影響により、**例年以上に発病ほ場および上位葉鞘まで進展したほ場**が見られました。発病ほ場の増加により、年々ほ場内の菌核の密度は高まっています。

減収率5%を許容水準とすると、要防除水準は穂ばらみ期の発病株率が中生品種で15%程度、晩生品種で20%程度です。必要があればJA等に相談し、本田での防除を行いましょう。

#### 3) いもち病

箱施用剤の施用量を順守し、予防防除に努めましょう。あわせて、ほ場をよく観察し、必要があればJA等に相談し、本田での追加防除を検討しましょう。

#### 4) 斑点米カメムシ類

地域一斉の草刈りや広域一斉防除は斑点米カメムシ類の防除に効果的です。

ほ場内にヒエやイヌホタルイなどの雑草があると、斑点米カメムシ類をほ場に呼び寄せるため、除草は確実に行きましょう。令和6年度に残草が多かったほ場では、一般米栽培に戻し体系防除による除草を行うことも検討しましょう。また、高温の影響によりカメムシ類の各世代の発生盛期は平年より早まっているため注意しましょう。

アカスジカスミカメの密度低下の一つの方法として、越冬世代の餌となるイネ科植物がある場所を春に草刈り、除草剤散布、畦塗りすることも有効です。

### (5) 適期収穫

「ひとめぼれ」「ササニシキ」の収穫期の目安は出穂後の積算平均気温1,000℃となった頃です。積算平均気温とあわせて、籾の熟色、籾水分等から総合的に判断し、**適期刈取りに努めましょう。**